

「殺生石」物語考

物語の概略②

金毛九尾白面の狐退治の顛末をお聞きになった、鳥羽天皇の歡感(くわんかん)は浅(あ)からず、安倍泰親(あべのやすちか)三浦介(みほのすけ)、上総介(かみさとのすけ)、那須宗重(なすのむねしげ)らに多くの恩賞(おんしょう)を与え、泰親(やすちか)は昇殿(しょうでん)も許された。

時(とき)がたち、世(よ)は、鳥羽(とほ)天皇(てんかう)から崇徳(すうとく)、近衛(ちかえ)、後白河(ごしろがわ)天皇(てんかう)へと移(うつ)った久寿(きうす)二年(に)一(いち)五(ご)五(ご)、那須(なす)宗重(むねしげ)より、石魂(いしだま)が人民(じんみん)を害(がい)しているとの注進(しゆしん)があつた。朝廷(てんてい)はやむなく、今(いま)は年老(ねんろう)いた泰親(やすちか)を那須野(なすの)に派遣(へんぱん)し修法(しゆぼう)を行(な)わせ、これを鎮めさせた。

やがて、保元(ほうげん)の乱(らん)、平治(へいし)の乱(らん)と世(よ)は乱(らん)れ、鳥羽(とほ)法王(ぽうおう)も宗重(むねしげ)も亡(な)くなり、毒石(どくせき)のことはいつか沙汰(さた)止(と)みになつた。が、十数(じゆしう)年後(ご)の承安(じやうあん)の頃(ころ)には又(また)、毒石(どくせき)に近寄(きよ)つて死(し)する蕃獸(ばんじゆ)や、空飛(くうとび)ぶ鳥(とり)が死骸(しがい)の山(やま)を作り、人々(ひとびと)はこの石(いし)を「殺生石(せしじゆうせき)」と名付(な)けた。

ここに、殺生石(せしじゆうせき)の怨念(おんねん)を教化(きやうか)しようとして、紀伊(きい)国(くに)紀三井寺(きさんせい)の高僧(こうそう)浄恵(じやうゑ)は、朝廷(てんてい)に申し出(で)て勅命(しゆくめい)を受け弟子(でし)二人(に)と共に殺生石(せしじゆうせき)に

赴(まゐ)いた。一行(いっぎやう)は二町(にちやう) (約(やく)二百

米(まい))ばかり手前(てまへ)より、経文(きやうもん)を誦(と)しながら近(ちか)づいた。が、生臭(なまけ)い風(かぜ)が吹(ふ)いてきたかと思(おも)うと、忽(たち)ち、弟子(でし)二人(に)が即死(じやくし)した。これに驚(おど)く間(ま)もなく浄恵(じやうゑ)も又(また)、地に倒(た)れた。播磨(はりま)国(くに)(現(いま)兵庫(ひんごう)県(けん)の一部(いちぶ))、書写山(しよせんざん)の了空坊(りやうくうぼう)も、世(よ)に名高(な)い知識(ちきしき)、悟道(ごだう)の名僧(なそう)であつたが、師弟(しでい)三人(さんにん)、同じ(おな)じように那須野(なすの)の露(つゆ)と消(き)えた。遙(とほ)かに年(とし)を経て筑前(ちくぜん)国(くに)(現(いま)福岡(ふくおか)県(けん)の一部(いちぶ))、新浄寺(しんじやうじ)の道喜(みちき)阿舍利(あじり)も又(また)、弟子(でし)四人(に)と共に、教化(きやうか)を試(こ)みよ

うと殺生石(せしじゆうせき)に近(ちか)づいたが、怪風(かいふう)にあたつて死(し)したのは、浄恵(じやうゑ)や了空(りやうくう)と同様(どうよう)であつた。この後(ご)で、教化(きやうか)を試(こ)みる高僧(こうそう)名僧(なそう)はいなくなり、この毒石(どくせき)に近(ちか)づくものは誰(たれ)もなかつた。ただ、無心(むしん)の禽獸(けいじゆ)のみが夥(おほ)しく命(いのち)を落(お)とし、殺生石(せしじゆうせき)には不気味(ふきみ)な雰圍(ふんゐ)気が漂(よ)つた。

筆者 前那須歴史探訪館 館長

齊藤 宏壽 先生(湯本在住)

今月のひとこと
人形の土方(ひたかた)もいて菊祭り
ここは戌辰(いさご)の戦(いくさ)の城址(しろぢ)

かつこう

時折(ときとき)激(げき)しく雨が降(ふ)つた10月(じゆ)22日(にち)、大勢(おほしやう)の来場者(らいじやう)を迎(むか)え、天皇(てんかう)陛下(てんか)のご即位(ごけい)をお祝(いわ)いしました(7頁)。芸術(げいじゆん)の秋(あき)にもふさわしく、会場(かいじやう)は室内(しやうない)オーケストラ(おけすたら)による優雅(えいあ)な音色(しき)が響(ひび)き渡(わた)り、心が少(すく)し和(な)んだのを覚(おぼ)えています。災害(さいがい)が続(つづ)き胸(むね)を痛(いた)めた月(つき)でしたが、新(あたら)しい令和(れいわ)の時代(じだい)、平和(へいわ)と幸(さい)せを願(ねが)うばかりです。(高)

(高)

関東(かんとう)地方(ちほう)を縦断(じゆうだん)した台風(たいふう)19号(ごう) (9頁)。町内(ちやうない)では避難所(なんなんじよ)を6カ所(しよ)開設(けいせつ)し、一時(いち)400名(な)を超(こ)える町民(ちやうみん)が避難(なんなん)しました。避難所(なんなんじよ)運営(えんぎん)に従事(じゆんじ)し、1番(ばん)に感じたのが地域(ちいき)のつながりの強(つよ)さでした。自治会(じぢかい)や民生委員(みんせいゐい)、消防団(しやうぼうだん)員(いん)、近所(ちかところ)の方(かた)による巡回(くわんかい)や見守(みまも)り、声掛(こゑか)けなどの地域(ちいき)ネットワークは、有事(うじ)の際(とき)に大きな力を發揮(はつぱい)することを実感(じつかん)しました。そして避難所(なんなんじよ)での「助け合い」 「協力(きやうりき)」がありがたかつた。(米)

(米)

保育園(こゑん)のりんご狩(かり) (25頁) では、千振(ちんぶり)の玉田(たま)りんご園(いん)に行(い)きました。子ども(こども)が大好き(だいすき)なりんご(ご)を収穫(しゆく)の前に、園児(えんじ)たちはほ(ほ)ど夢中(むちゆう)で食(た)べていました。外国(がいこく)では昔(むかし)から「1日(いちにち)1個(こ)のりんご(ご)は医(い)者(しや)いらず」と言(い)われるほど(ほど)りんご(ご)は体(てい)に良(よ)い果物(くだもの)として知(し)られています。立冬(りゅうとう)を迎(むか)え、冬(ふゆ)が始(はじ)まります。りんご(ご)を食(た)べて、冬(ふゆ)も元(げん)気(き)いっぱい(ぱい)に過(く)ごしましよ。(飯)

(飯)

こんにちは

赤ちゃん



高(たか)久(く)ら
桜(あけぼの)羅(ら)
(高久(たかひさ)甲(か))

平成(へいせい)30年(ねん)
4月(ご)26日(にち)生(う)ま

父(ちち) 哲(てつ)さん 母(はは) 瑠(る)惟(い)さん

桜羅(あけぼのら)ちゃん(ちゃん)は…

歩(あ)くのが大(お)好き(すき)な
おてんば娘(むすめ)です!

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは総務課秘書広報係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口

・世帯数 10,381世帯 (- 4)
(10月1日現在・住民基本台帳)
()の数字は前月比
・人口 25,136人 (-19)
男 12,491人(-6) 女 12,645人(-13)

あなたの「声」をきかせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。